

# 令和8年度 研究推進計画

## Ⅰ 研究推進について

### (1) 研究主題

#### <研究主題>

**主体的・対話的で深い学びのある授業づくり**  
 ～学級経営を基盤に、他者との対話から思考を深める児童の育成～

### (2) 主題設定の理由

昨年度は、算数科を中心に、ICT を活用しながら他者との対話を取り入れた授業づくりに取り組んだ。ロイロノートや Google ワークスペース(クラスルーム、スプレッドシート、スライド等)を活用して、児童の考えを共有・可視化することで、児童同士の関わりが活潑になり、算数アンケートでは「なるほど!分かった!と思ったことがある」の項目に対して、肯定的な回答をした児童の割合は 84.2%に達した。また、対話のルーブリック(教職員用)(図1)を作成し、児童の対話を文字起こしや動画を用いて、対話の質を客観的に見取る取組を進めた。さらに、児童用の対話のルーブリック(図2)も作成し、児童へ提示することで、対話の質の向上に向けて児童が自覚しながら主体的に取り組めるようにした。そうすることで、相手の考えを理解しようと「きく(聴く・訊く)」児童が増え、思考を深めようとする姿が多く見られるようになった。

一方で、対話が表面的なやり取りにとどまる児童や、発言に不安を感じ、対話に十分参加できない児童の姿も見られた。これは、安心して意見を出し合える学級風土や人間関係づくりが十分でないことが要因と考えられる。単元末テストでは、「思考・判断・表現」の項目で70%以上正答した児童が80%以上に達した割合は全体で1学期71.4%、2学期66.3%にとどまり、文章題の読解力や基礎的な計算技能の定着にも課題が見られた。

そこで本年度は、昨年度の成果を生かしながら、算数科を中心に対話の質の向上と対話の土台となる学級づくりに重点を置き、基礎基本的な知識技能の確かな定着を図りながら、児童の思考をより一層深める授業づくりを進めるため、本主題を設定した。

教職員用ルーブリック

レベル	きく	見方・考え方	伝える(伝える)
4	【具体的にきく】 「〇〇ってどういうこと?」	○ (ふれて いる)	「まとめるよ～」 「例えだよ～」 「生れて言うよ～」 「〇〇は同じだけど、△△は違うね。」
3	【質問】 「どういうこと?」 「なぜ?」		「わたしは～だと思えます。」 「わけは～かなです。」 「～かな?」 「なるほど。」
2	【理由話す】 「もう一度言って(説明して)?」		「私は、～だと思えます。」 「やっぱり～と思うよ。」
1	【反応する】 相手の発言に対して聞く 「うんうん。」	× (ふれて いない)	「同じです。/違います。」 「似ています。」
0	聞けない 聞かない		伝えられない 伝えでない

【備える】  
相手を見る・体を向ける  
メモを取る・相手意識をもって話す

(図1)

レベル	きき方の達人	話し方の達人
レベル4	【具体的にきく】 「つまり、〇〇ってどういうこと?」 「〇〇ってどういうこと?」 「どうして〇〇って思ったの?」	【詳しく話す】 「まとめるよ、〇〇ということです。」 「例えば、〇〇です。」 「〇〇は同じだけど、△△は違うね。」
レベル3	【質問】 「どういう意味?」 「なんでこうなるの?」	【理由を言う・反応する】 「私は、〇〇だと思えます。」 「わけは、〇〇だからです。」 「たしかに、その考えもあるね。」
レベル2	【きき返す】 「ここがよく分からない。」 「もう一度言って?」	【自分の意見を言う】 「私は、〇〇だと思えます。」 「やっぱり〇〇じゃない?」
レベル1	【反応する】 うなずく。「うんうん。」「なるほど。」	【自分と比べる】 「同じです。」「違います。」「似ています。」

(図2)

### (3) 研究仮説

安全・安心な学級集団を基盤に、算数科において他者との対話を充実させることで、児童は「見方・考え方」を働かせながら思考を深めることができるだろう。

### (4) 研究内容

研究の中心を次の3点とする。

- ① 誰もが安心して過ごせる学級づくり
  - ・集団で話し合い、合意形成を図る学級活動の充実
- ② 他者との対話を取り入れた算数科の授業づくり
  - ・対話のルーブリックを活用した「きく(聴く・訊く・効く・利く)」力の育成
  - ・児童の思考が深まる ICT の効果的な活用

③ ICT を活用した校内研修の改善

- ・対話の文字起こし・動画による客観的分析
- ・生成 AI を活用した対話の質の評価
- ・「対話のルーブリック」の継続的改善

(5) 検証の視点と方法

検証項目	検証方法	検証指標
他者との対話から、思考を深めているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査等の分析</li> <li>・単元末テストの分析</li> <li>・算数アンケートの分析</li> </ul>	・アンケートで「思考が深まった」と肯定的に回答する児童:80%以上
		・単元末テスト「思考・判断・表現」の項目 70%以上正答の児童:80%以上
安全・安心な学級集団になっているか。	・i-check の分析	・アンケートで「支え合うクラスになっている」と肯定的に回答する児童:80%以上

(6) 研究計画

一学期	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究推進について</li> <li>・児童の思考を深める質の高い対話の在り方とは何か、職員で議論して共通認識をもつ。</li> <li>・本校の児童の様子や学級経営について成果や課題を共有し、全校で統一した内容に取り組む。</li> <li>○授業研究</li> <li>・対話の質の分析</li> <li>・自身の課題の明確化、共有、実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート 1 回目実施(児童・教職員)</li> <li>・各月研究部会について、取組の定期的な交流</li> </ul>
	5月		
	6月		
	7月		
夏季休業中	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT 活用の実践交流</li> <li>○学級経営の取組の交流</li> <li>○学級づくりに係る研修</li> <li>○ルーブリックの改善</li> <li>○2学期の方向性の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力状況調査の結果分析</li> </ul>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究</li> <li>・対話の質の分析</li> <li>・自身の課題の明確化、共有、実践</li> <li>○八次中学校区小中合同授業研修会(授業参観・研究協議)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート 2 回目実施(児童・教職員)</li> </ul>
	10月		
	11月		
	12月		
三学期	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業研究</li> <li>・対話の質の分析、ルーブリックの改善</li> <li>・自身の課題の明確化、共有、実践</li> <li>○研究のまとめ</li> <li>・実践の成果・課題の分析及び、児童の実態把握</li> <li>・次年度への研究の方向性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート 3 回目実施(児童・教職員)</li> </ul>
	2月		
	3月		

※授業研究  
指定研修等と兼ねる場合もある。